

JA全農ウィークリー

4面

第5回和牛甲子園をオンラインで開催 総合評価部門最優秀賞は愛知県立渥美農業高校(畜産総合対策部)

2面

東海・近畿広域部品センター竣工
(耕種資材部)



「JA全農京都宇治茶流通センター」竣工(3面)



「やさいバス」に出荷開始(2面)

第5回和牛甲子園(2022.1.21)



過去最多の35校が出場しオンライン形式で開催(4面)

2 生産者と実需者をバスがつなぐ
「やさいバス」に出荷開始(神奈川県本部)

3 「宇治茶」の新たな一大物流拠点竣工
(京都府本部)

和歌山県産「下津蔵出しみかん」を
香港消費者に紹介(全農香港事務所)

5 令和3年度 各事業の主な取り組み
営業開発／輸出事業

6 ブランドヒストリー⑦
宮城県を代表する新たな品種
「にこにこベリー」(宮城県本部)



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちらから



7 JAズームイン(兵庫:JA兵庫六甲)

8 全農直営飲食店舗で福岡県産
「デコポン®」フェアを開催
(フードマーケット事業部)

「カレーの日」に向けトマト利用を
呼びかけ(岐阜県本部)

JAタウンショップ紹介
JA高千穂(宮崎県)

Web版JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

新大関・御嶽海関を食で応援(長野県本部)

岐阜県飛騨産の果物使用
「濃厚にこりじゅれ」新発売(岐阜県本部)



News!



「JA全農東海・近畿広域部品センター」が稼働

農業機械部品の供給体制を強化

耕種資材部

開所式の様子



県域を超えた広域部品センターは、現在全国で8カ所が稼働しており、農業機械の迅速な修理・整備対応を目的に、即納率（受注当日出荷件数の割合）の向上に取り組み、おおむね80%以上という成果を上げています。

東海・近畿広域部品センターは、愛知・三重・滋

全農は、東海・近畿地区4府県域を供給エリアとする農業機械部品の広域物流拠点「JA全農東海・近畿広域部品センター」を三重県津市に設置し、1月5日から受注・出荷を開始しました。1月28日には開所式を行い、新しい施設と配送の安全祈願を行いました。

賀・京都の4府県域を供給エリアとし、2万5千点から3万点の部品管理アイテムを保有して、即納率の向上に取り組みます。

また、夜間配送による翌朝JA納品を行う他、部品業務の効率化を目的にシステム導入も進めています。

JA農機センターには、オンライン発注、パーツリスト検索などに利用する「M-Web」を設置するとともに、東海・近畿広域部品センターには、物流管理にバーコードシステムを導入し、迅速化と正確性を高めています。

東海・近畿広域部品センターの稼働により、管内のJA農機センターへの迅速な部品供給を通じて生産者・JAへのサービス向上に取り組んでいきます。

News!



「やさいバス」に出荷開始

生産者と実需者をバスがつなぐ

神奈川県本部



出荷作業を行う中央ベジフルセンター職員(左)

神奈川県本部中央ベジフルセンターは1月5日、運送手配・青果物卸事業者の「やさいバス」へ、初めての出荷を行いました。

「やさいバス」は生産者拠点と実需者拠点をルートでつなぎ、トラックやバンなどの冷蔵車が停留所（バス停）と呼ばれるストックポイント巡回する、やさいバス（株）が提供する仕組みです。生産者が最寄りの停留所に出荷した農産物を、実需者は希望した停留所でのその日のうちに受け取

ることができます。昨年、全農の新規事業提案制度「Zennovation」で、協業事業の構想が最優秀賞を受賞しました。現在はJAグループのオープンイノベーションラボであるAgventure Labの支援を受けています。

今回、停留所の一つ、中央ベジフルセンターから出荷したのは、ミニトマト、ミカン、キウイ、レモンの4種類で、停留所を設置している県内小売店へと運ばれました。

今後はやさいバスを通じた新規顧客開拓および、農産物直売所の活性化に向けた取り組みを検証していきます。



「JA全農京都宇治茶流通センター」竣工

コロナ後の海外需要も見据え新拠点開設

京都府本部



竣工式

近年の抹茶人気を背景に、原料となるてん茶の荒茶生産が拡大しており、集出荷場の処理能力や、冷蔵庫保管スペースの不足が懸案となっていました。そこで京都府本部は新たな用地に同センターを開設しました。

施設内の茶専用冷蔵庫は、広さ2000平方メートル、高さ23・5メートルで、専用コンテナ

による自動格納式を採用し、

京都府本部は京都のブランド茶「宇治茶」の新たな一大物流拠点となる「JA全農京都宇治茶流通センター」を開設し、1月26日に竣工式を行いました。これまで産地ごとに行われていた荒茶の集出荷や冷蔵庫保管を一手に担います。

もみ茶換算で2000トンが保管できます。

26日の竣工式には関係者31人が出席し、京都府本部運営委員会の中川泰宏会長は、「お茶は日本の伝統文化。最高の茶を作ることにより力を尽くすので、新しい市場で最高の価格で買ってもらいたい」と茶商に呼び掛けました。

今後は、需要が伸びるてん茶の増産や輸出にも乗り出し、新型コロナウイルス禍に伴い販売が低迷する茶農家の所得向上につなげます。



自動格納式冷蔵庫前室



和歌山県産「下津蔵出しみかん」を香港消費者に紹介

ライブコマース企画第5弾

全農香港事務所



ライブコマースの様子

今回はJAながみね下津管内のミカン圃場から、和歌山県産の「下津蔵出しみかん」の魅力を香港の消費者に生配信でPRしました。

下津蔵出しみかんは収穫後のミカンを木箱に詰め、土壁の貯蔵庫で1カ月以上熟成させたもので、甘味や酸味のバランスが良くなり、まるやかな食味に仕上がった温州ミカンです。

当日はJAながみね下津柑橘部会の岡本芳樹副部長が貯蔵庫の中を案内しながら貯蔵方法などの説明と

全農香港事務所は、和歌山県のJAながみねと1月8日、ライブコマース企画第5弾として、香港消費者向けに同県産「下津蔵出しみかん」を紹介しました。

ミカンの糖度測定や試食などを行い、香港の消費者へ普段見ることのない下津蔵出しみかんの魅力を発信しました。岡本副部長は「先人の知恵と技術が詰まった『下津蔵出しみかん』をぜひたくさんの方に味わってほしい」と話しました。

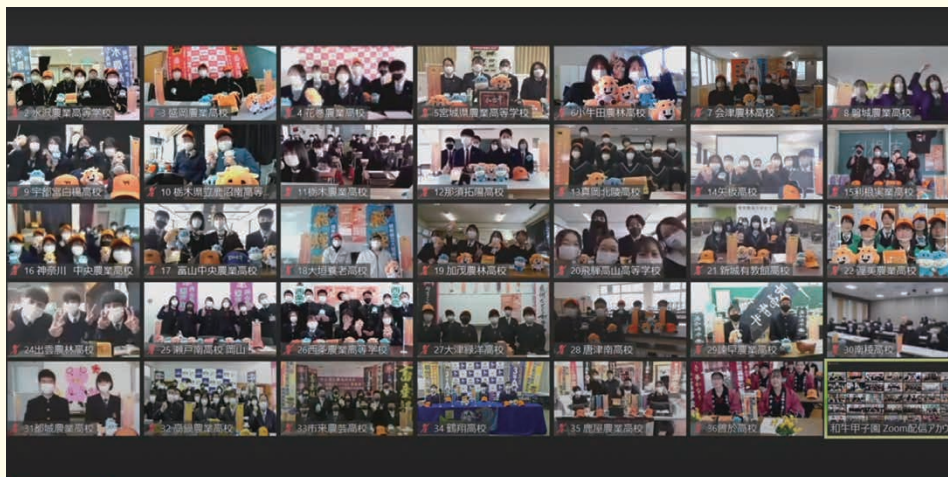
ライブコマースを行った結果、視聴者からはPR期間中に100箱（3詰箱）のオーダーをいただきました。和歌山県産農産物のおいしさをさらに広められるよう、今後取り組みを進めていきます。



特製の木箱で貯蔵される「下津蔵出しみかん」

第5回和牛甲子園をオンラインで開催

総合評価部門の最優秀賞は 愛知県立渥美農業高校が初受賞



過去最多の35校が出場しオンライン形式で行われた

全農は1月21日、第5回となる和牛甲子園をオンライン形式で行いました。総合評価部門の最優秀賞には愛知県立渥美農業高校が輝きました。

【畜産総合対策部】

和牛を飼育する全国の高校生、高校牛児たちが、日々の飼育管理の取り組みや育てた牛の肉質を競う本大会には、今回過去最多

の35校が出場し、50頭の和牛が出品されました。

和牛甲子園は①将来の担い手への支援・就農意欲の向上②将来の担い手のネッ

トワーク創出・飼育技術の向上——を目的とし、日々の飼育管理の取り組みについて発表する「取組評価部門」と、育てた牛の肉質を競う「枝肉評価部門」があり、それぞれの部門と合計した総合評価で競います。

取組評価部門は、栄養価の高い酒米ぬかを給餌し、科学的検証も取り入れ、和牛の短期飼育への挑戦を発表した広島県立西条農業高校が最優秀賞を受賞しました。枝肉評価部門は、圧倒的な肉量感でプロ顔負けの枝肉だと審査委員から評価された鹿児島県立曾於高校が最優秀賞を受賞しました。

総合評価部門では、取組評価で「持続可能な和牛生産」をテーマに、JGAP認

証取得や休耕田での自給飼料生産などの取り組みを分かりやすく発表し、枝肉評価では、ロースの形が大きく、モモまで脂肪交雑がしっかりと入った枝肉が高く評価され、両部門で優秀賞を獲得した愛知県立渥美高校が最優秀賞を受賞しました。受賞時のイン

タビューでは「総合優勝を取れるなんて夢にも思っていなかったので大変うれし。牛に愛情を込めて楽しんで育ててきた。来年は各部門の最優秀賞を目指したい」と涙ながらに喜びを語ってくれました。

本大会は、多くのメディアから注目され、参加校同士の交流機会や各地域で参加校への応援が年々広がっていることに加え、本大会の記事を読んで高校牛児になりたいと農業高校の門をたく生徒が出てきていることなど、大会設立の目的が徐々に浸透してきています。これからも、全農は大会運営を通じて、全国で頑張る高校牛児を応援していきます。

第5回和牛甲子園受賞校

総合評価部門

褒賞	高校名
最優秀賞	愛知県立渥美農業高等学校

取組評価部門

褒賞	高校名
最優秀賞	広島県立西条農業高等学校
優秀賞	愛知県立渥美農業高等学校 鹿児島県立市来農芸高等学校
優良賞	鹿児島県立鹿屋農業高等学校 鹿児島県立鶴翔高等学校 福島県立会津農林高等学校
審査委員特別賞	岡山県立瀬戸南高等学校
高校牛児特別賞	宮城県農業高等学校

枝肉評価部門

褒賞	高校名
最優秀賞	鹿児島県立曾於高等学校(出品番号50)
優秀賞	岐阜県立大垣養老高等学校(出品番号24) 愛知県立渥美農業高等学校(出品番号30)
優良賞	栃木県立栃木農業高等学校(出品番号13) 栃木県立那須拓陽高等学校(出品番号15) 鹿児島県立鹿屋農業高等学校(出品番号48)
審査委員特別賞	宇都宮白楊高等学校(出品番号10)

令和3年度 各事業の主な取り組み

第1回

営業開発／輸出事業

令和3年度に全農が各事業で展開した
主な取り組みを紹介します(全5回)。

営業開発部

商品開発および アライアンスによる 取り組み

全農グループ会社との連携はもとより、小売業者や食品メーカー、商社など、他社とのアライアンスによる「共同営業」や「商品開発」、産地を巻き込んだ取り組みに向けた「産地開発」など、販売事業における「バリューチェーン」の構築に取り組んでいます。

「商品開発」においては、「全農グループ



ファーマーズ&キッズフェスタ二子玉川駅(2021年10月2日)



羽田空港「和蔵場」ポップアップストア(2021年12月17日～2022年3月末)

MD部会」のもと、全農グループの商品ブランドとして商標登録した「ニッポンエール」のブランドディングを進めています。2021年6月には新たな取り組みとして、全国の産地を応援する「ニッポンエールプロジェクト」を開始し、伊藤園とのWブランドで清涼飲料水「宮崎県産日向夏」、「大分県産完熟かぼす」を発売しました。9月には、全国各地の特色ある果実を使用したニッポンエールグミ28種類(2022年1月末現在、32種類)を発売し、ヒット商品となっています。

今後も、商品開発はもとより、マーケティングから営業、さらにそのリニューアルまで二連のプロセスを通じて、全国の農畜産物の販売強化につなげていきます。

輸出対策部

国産農畜産物の輸出拡大のために、海外での新拠点設立や販売チャネルの拡大を進めています。2021年4月には輸出事業委員会を新設し、JAグループ内での輸出戦略の共有と輸出事業の利用結集を促進する場として初会合を行いました。



上海で開催された世界最大級の食品見本市「SIAL China」に出展

た。12月には輸出拡大推進会議にて、輸出品目ごとの分科会や海外における商標保護についての講演会を開催し、150人以上が参加しました。また、域内の農畜産物や加工品の輸出入業務の役割を担う拠点として、全農インターナショナル香港(株)マカオ支店を4月に設立しました。今年度の新しい販売チャネルとして、ライブコマース(SNSなどで動画をライブ配信し、商品を紹介して購入してもらう販売形態)を行い、日本の各産地と海外消費者を中継し、マンゴーや桃、マスカット、ミカンなどをPR・販売しています。

今後の市場拡大が期待される中国においては、現地法人である全農(上海)貿易有限公司が11月の見本市に出展し商談を行った他、今年2月の春節に向けて、ホクレン・サントリーグループと共同開発した「JAPANESELECTION」北海道りんごジュースを輸入し、販売しています。コロナ禍で各国さまざまな制限が続いている状況ですが、今後も各海外拠点と連携し国産農畜産物の輸出拡大に向けて努めています。

ブランドヒストリー ⑦

宮城県を代表する新たな品種

みんなの笑顔を運ぶ奇跡のひと粒「にこにこベリー」

「宮城県育成品種」「にこにこベリー」は宮城県育成品種「もういつこ」と「とちおとめ」を交配し、優良な系統を選抜して誕生しました。さらなるイチゴ産地の発展と「作り手、売り手、さらには手に取って食べる全ての人が笑顔になるイチゴ」という思いが込められています。

【宮城県本部】

「にこにこベリー」

開発の経緯

宮城県のイチゴ生産は、本県育成品種「もういつこ」と「とちおとめ」の2品種が主力品種として栽培され、11月から

6月まで長期出荷が行われています。「とちおとめ」は、年始の収量が多く食味が優れる品種です。一方「もういつこ」は宮城県内で選抜育成され、

本県の気象条件に適応した品種で、年始からの収量が多い品種となっています。新品種「にこにこベリー」は、東日本大震

災後に導入した高設の養液栽培で栽培しやすく、味や形などの品質が安定すること、また12月までの収量が安定し、甘さと酸味のバランスが良く、

果実の色が鮮やかな赤色の円すい形でそろいの良い品種を選抜して、導入されました。

「にこにこベリー」

栽培の開始と今後

宮城県は東北1位のイチゴ生産量で、約8割が亘理町、山元町で生産されています。

「にこにこベリー」は2019年

から同地区で栽培が開始され、県内の生産者にも本県産イチゴ3品種の一つとして栽培面積を増やしています。早期に栽培を始めた生産者からは、年内から安定した収量であると評価されています。栽培され3年が経過しますが、今後は「にこにこベリー」の良さである果形のそろいの良さ、また、さわやかな甘さと酸味がある品種特性をアピールし、消費者から親しまれる取り組みを行っていきます。

現在の販売先は県内や北海道の量販店がメインとなっていますが、「仙台いちご・にこにこベリー」を含むイチゴに携わる全ての人を笑顔にするため、新たな消費者にPRし、ブランド価値向上にも努めています。

プレゼント

にこにこベリー4パックを10名様にプレゼントします。



応募方法

件名に「ブランドヒストリープレゼント」、本文に郵便番号、住所、氏名、年齢、所属JA、電話番号、JA全農ウィークリーの感想をご記入の上、メールにてご応募ください。

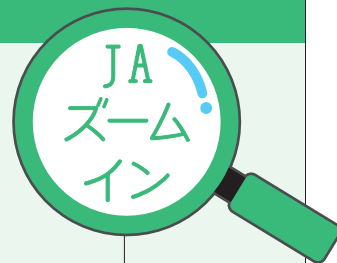
応募先

zz_zk_zennohweekly@zennoh.or.jp

締め切り

令和4年2月18日(金)23時59分

※応募者多数の場合は抽選で当選者を決定いたします。また、当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※いただいた個人情報は、プレゼントの発送にのみ使用いたします。



育苗施設刷新で分業化を図り営農継続につなぐ

「苗半作の想い」が農業生産の一端を担う

JA兵庫六甲は、神戸市、芦屋市、西宮市、尼崎市、伊丹市、川西市、宝塚市、三田市、猪名川町からなり、都市部から緑豊かな農村地域まで幅広く、その地域の特色を生かした新鮮な農畜産物が数多く生産されています。

全国1、2位を争う
多品目苗栽培

「JA兵庫六甲園芸育苗施設」は、管内の野菜や花きを80品目以上管理しています。品種も含めると数百種類以上になり、管理する品目の多さでは日本でも1、2位を争う育苗センターです。

品目が多いのは、生産者が種を持ち込み、苗を育苗するフルオーダー制を取っているためです。育苗中も生産者からの「こんな苗にしてほしい」という要望を



生産者の要望に合わせ育苗

ムービングベンチシステム
で生産能力が1.5倍に

聞きながら管理しています。

同施設は2019年度にハウス4棟（広さ約3600平方メートル）を新たに建設しました。温度や湿度、日射量などのセンサーを備え、通気口やカーテン、



ムービングベンチシステム

冷房装置などの自動制御が可能です。各棟を運搬用レールでつなぐムービングベンチシステムを整備したことで、従来の1.5倍の生産能力となり、育苗トレイの最大管理苗枚数を2万2000枚まで拡大できました。最盛期には、1日当たり約1500枚播種し、地域農業の拠点となっ



野菜や花きを80品目以上管理

ています。

効率的な農業生産の
拡大で営農継続につなぐ

今後はさらに、管内の都市・農村地域に合ったさまざまな生産者からの苗需要に応え、「苗半作の想い」をもって良質な苗生産を行っていきます。農業生産の一端を担うことで農業の分業化を進め、効率的な農業生産の拡大を目指していきます。

JA兵庫六甲 (兵庫県)



概要		令和3年3月31日現在
正組合員数	3万857人	
准組合員数	9万6511人	
職員数	1134人	
販売品取扱高	151億7千万円	
購買品取扱高	34億5千万円	
貯金残高	1兆5130億6千万円	
長期共済保有高	2兆342億7千万円	
主な農畜産物	米、肉牛、軟弱野菜、 キャベツ、トマト、黒大豆(エダマメ)、 梨、イチジク、花き	



全農直営飲食店舗で福岡県産「デコポン®」フェアを開催

甘みたっぷり、口いっぱいに広がるジューシーな味わい

全農は2月7日から2月22日の間、東京・広島・福岡県内の直営飲食店舗4店舗で福岡県産「デコポン®」フェアを開催します。

【フードマーケット事業部】

「デコポン®」は、商標使用許諾を受けた農業団体(JA)で、高品質を保つための全国基準をクリアした柑橘品種(しらぬい：清見タンゴール×ポンカン)のみが、「デコポン®」というブランド名で出荷が可能となっています。甘味が強く程よい酸味と濃厚でジューシーな味わいが特徴です。

今回のフェアでは、これから旬を迎える福岡県産「デコポン®」をふんだんに使用したスイーツやドリンクなどの特別メニューを各店舗で提供します。この機会に、ぜひお楽しみください。

※「デコポン®」はJA熊本果実連の登録商標です。



くだら 561円/みのりカフェミュブラザ博多店



スムージー・タルト 759円/みのりカフェ福岡パルコ店

メニュー提供概要

※写真はイメージです。価格は全て「税込み」「店内価格」

期間 2月7日(月)~2月22日(火)

実施店舗

みのりカフェ三越銀座店
みのりカフェエキエ広島店
みのりカフェミュブラザ博多店
みのりカフェ福岡パルコ店

店舗情報は
こちら



※新型コロナウイルス感染拡大の影響によりフェア開催内容が変更となる場合があります。



「カレーの日」に向けトマト利用を呼びかけ ポスターにレシピも掲載し手軽さをアピール

岐阜県本部をはじめとする冬春トマトの主産地11県(岐阜、長野、山梨、長野、山梨、山梨、山梨、山梨、山梨、山梨、山梨)の全農県本部および県経済連は、カレーラーなどを製造する食品メーカー22社で構成する全日本カレー工業協同組合が「カレーの日」と定める1月22日に、トマトの積極的な利用を呼び掛けました。【岐阜県本部】

冬春トマトは10月から翌年6月にかけて収穫されるトマトのこと。トマトは冬場になるとサラダ需要が減少し、消費が落ち込みます。幅広い世代で人気のカレーにトマトの利用を呼び掛けることで冬場のトマト消費を押し上げようと、11県(茨城、栃木、群馬、千葉、静岡、愛知、岐阜、福岡、佐賀、熊本、宮崎)が連携して実施しました。

11県は同組合の協力を受け、「冬野菜カレー」の写真が目目を引くポスターを合同で制作し、当日に向け量販店を中心に配布。レシピも掲載し手軽さをアピールしました。

岐阜県本部の担当者は「今後もサラダ利用にとどまらないさまざまなトマトの食べ方を消費者に提案することで消費拡大につなげたい」と意気込んでいます。



トマトの旨み広がる冬野菜カレーのレシピ入りポスター



JA高千穂

「たまたま」は、生で食べることを目的としてハウスの樹上で完熟させた、食味・外観の優れた完熟のキンカンです。その名前は、おいしいキンカンが「たまたま」偶然にしかならないことに由来しています。

「たまたまEXCELLENT」は「たまたま」の中でも糖度18以上、直径3.3cm以上の厳しい基準をクリアした最上級のキンカンです。加工用と比べ、果実が大きくて甘味が強く、生のまま皮ごと丸かじりで食べられます。

キンカン生産量日本一の宮崎県が誇る完熟キンカンをご堪能ください。



たまたまEXCELLENT 化粧箱1kg
……3500円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com

休刊のお知らせ
2月14日号は休刊いたします。
次は2月21日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。